

鶴ヶ島市議会議員

小川ひろみ

32歳

つるがしま

鶴ヶ島を変える！

給食費無償化

マイノリティ支援

孤立世帯の
見守りシステム構築

健康格差の縮小

こうやく
公約

けんこう かくさ

しゅくしょう

健康格差の縮小

HPVワクチンのキャッチアップ接種は まだ間に合います！

1997年4月2日～2008年4月1日生まれの女性は、
子宮頸がんや咽頭がんなどの予防に有効な HPVワクチンを
接種できていない恐れがあります。

鶴ヶ島市の接種対象者の接種率は 18.9%と非常に低く、接種対象者が
30・40代になって仕事や子育てに頑張りたい時期に“がん”という
人生を左右する病気に苦しむ恐れがあります。

日本では3回の接種が必要とされていますが、1回の接種でも有効という
エビデンスもあり、イギリスでは2024年から1回のみの接種が行われて
います。無料で接種できるのは2025年3月末までです。



小川ひろみのポイント解説

HPVワクチンは男性にも有効です。
費用面を考慮して私は1回のみ接種していますが、
3回接種するのが一番有効です。
がんを予防できるワクチンです。
男性も女性も接種を強くオススメします。

鶴ヶ島市の市政がどうなっているか あなたは知っていますか？

鶴ヶ島市が市民の承認を得ずに 1.2 億円の支出をしていたことが判明しました

鶴ヶ島市が税金を使う際には市民の代表である議会の承認が必要です。

しかし、議会の承認を受けず、市が 1.2 億円を支出していたことが判明しました。

市議会議員全員に対して、市長と市幹部職員から説明と謝罪がありました。

支出は災害用蓄電池など市民の生活に必要なものでしたが、購入品の選定プロセス（もっと安く購入できなかったか など）が十分に説明されないまま、議会の承認だけを求められました。

同様の事例が判明した他自治体では、市長などを減給処分にするケースもありますが、

鶴ヶ島市では誰の処分も行わない、とのことでした。

さらには、説明の際に市長から「最終的には決算を市議会で可決してもらっている（何も問題ないと考える）」と、そもそも問題の要点を理解できておらず開き直っているような発言もあり、市職員から市長の発言内容を訂正される様子もみられました。

以上のような経緯から、議会にて市長の猛省及び再発防止を促す決議を行いました。



小川ひろみの視点

市議会議員としてだけでなく、1 人の鶴ヶ島市民として、市長へ法律の遵守と理解への努力を要請します。

また、このままの鶴ヶ島市ではいけないと決意を固めました。

議会や決定についての透明性を確保していきたいです。

ぜひ市議会のインターネット中継をご覧ください、

積極的な市民参加をお願いします。



市議会インターネット中継に
アクセスできます

公約報告

小川ひろみは公約として寄付を行っています。
月額 35.5 万円の議員報酬のうち 10 万円を
NPO 法人ブリッジフォースマイルに寄付しました。
これまでに計 70 万円を子供の支援を行う団体に
寄付しています。

小川ひろみプロフィール

平成 4 年生まれの 32 歳
医師（リハビリ科専門医）、防災士
障害のあるなしに関わらず、患者さんの「困った！」
を支えるお医者さんです。医師として働きながら、
鶴ヶ島市初の平成生まれの市議会議員として活動中。

発行 小川ひろみ後援会 鶴ヶ島市脚折 1501-2

ご家族、ご友人に小川ひろみのチラシをご紹介してくださる方を募集しています。

これは「討議資料」です。
これからの鶴ヶ島市にどうなって欲しいか、
ご家族やご友人と話し合ってみてください。

公式 SNS▶
市へのご意見
ご要望はこちらへ

